

77日間一学期終了

平成26年度も早いもので4か月が過ぎ、7月25日で一学期が終了します。4月4日の入学式から新入生47名を迎え、333名でスタートした今学期。5月には校庭運動会を行い、「燃えろ赤白 心を一つに 目指せ優勝」のスローガンのもと、元気いっぱい力を発揮してくれました。

1年生47名も入学以来、元気に過ごすことができ、運動会・水泳学習等を通して、学校に慣れ、たくましい姿がみられるようになってきました。2年生は、一つ学年が上がり、運動会でのダンスではまとまった姿をみせてくれました。3年生は、花摘み・摘果等りんごづくりを地域の方の協力を得てがんばりました。4年生は、身近な生活にかかわる消防署、浄水場・清掃センター等を見学して、そこで働く人たちの大変さを学習し、有意義な社会見学をしてきました。5年生は、6月飯綱高原学校に行き、飯綱山にも元気に登ってきました。稲作り・マコモタケづくりがんばっています。6年生は、台風のため、佐渡臨海学習が延期になってしまいましたが、最高学年として、委員会活動等先頭にたってがんばってくれています。

さて、26日より夏休みに入りますが、子どもたちが安全で元気に過ごせますよう各ご家庭の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

やはり朝食は大切!

10月7日、本校で行われる長野市上水内教育課程研究協議会（健康教育）の事前研究として、6月30日、6年生が研究授業を行いました。朝食を食べてくることは、習慣になっていても、その大切さについて実感が伴っていない子どもたちに、月曜日の朝、朝食を食べないで登校してもらい、自分たちで、朝食を作って食べ、朝食の良さや大切さを実感するというものでした。実際に朝食を食べた後は、「食べた方が元気になった」「朝食の大切さがわかった」等感想が聞かれ、今後大人になっていく上で、朝食のよさを再認識する機会になったと思います。



アルミ缶等プチ回収ご協力に感謝!

今年は、よもぎ集めをしない代わりに、自分たちで、アルミ缶・牛乳パック集め等を行い、その収益から、全校飯盒炊さんの食材費を賄おうというのですが、家の方のご協力でたくさん集めることができました。さあ目標を達成できたでしょうか。



夏休み 7月26日～8月19日

すでに配布されています「夏休みのすごし方」を家庭でも一読していただき、安全で楽しい休みにしていただければと思います。

特に次の点については、ご配慮をお願いしたいと思います。

- (1) プール事故の防止、河川、湖水等での遊びの禁止、河川等の注意
- (2) 自転車のヘルメットの着用、飛び出し注意
- (3) 火遊び（マッチ、ライター）の禁止、花火の注意
- (4) 不審者への注意、線路での遊びの注意、
- (5) 子どもだけのゲームセンター等への出入り禁止、無駄遣いの注意

※すでに水の事故も多発しています。川・水路での遊び・学校以外のプールでの遊びなど注意させたいものです。

万が一、何か緊急なことがありましたら、担任又は学校（Tel 257-3700）へご連絡ください。

7 月校長講話

今日は皆さんに先生が昔一緒に勉強したお友達を紹介したいと思います。20年以上も前になりますが先生は養護学校というところで、体の動かし方に障害のあるお友達と一緒に勉強したことがあります。肢体不自由の養護学校というところですよ。体の動かし方というのは、手や足が自由に思うように動かない、体の一部、口の動かし方もなかなか難しいそのようなお友達が通っている学校でした。感動したことが一つありました。先生が最初にその学校に行った時、入学式の準備をしている時に体育館の会場作りをしていたのですが、椅子がほとんどないのです。どうしてかなと思ったら、入学式の時にやっとわかりました。ほとんどのお友達が、車椅子で入場してきます。新入生も在校生も、そういうお友達がほとんどでした。こういうお友達もいるんだなと、このようなお友達に今まであったことがなかったので、初めていきあつて感動しました。この子たちと一緒に勉強するということが、しっかりやらなくてはいけないなと思いました。車椅子のお友達、手とか足とかうまく動かないお友達、手の動きがなかなか難しいので鉛筆をもって書くことが難しいお友達もいました。また、口の動かし方がうまくいかず、ことばがはっきり聞き取れないお友達は、今では「タブレット」みたいなものを使って勉強をしています。



障害の人たちにも オリンピックみたいなものがあります。この人は、手とか口とか足とかうまく動かない人です。頭のところに棒が付いていますが、棒で操作するのか、動かせるところを精一杯使って一生懸命やっています。



これは「トーキングエイド」といいます。ことばがはっきり聞き取れない、上手にことばが話せないお友達は、「あ」「い」「う」と文字が並んでいる機械があるんですが、「あ」というところを押すと「あ」ということばを言ってくれる。そういう機械です。自分の口で話すのに代わって、自分の思っていることを伝える機械です。さらにボタンをおすのも大変な



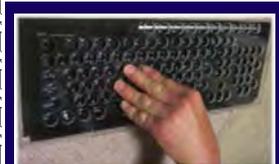
トーキングエイド

人は、「文字盤」といった大きな「あいうえお」表のようなものです。手で文字のところをおさえると、周りの人が、「あ」でいいのとか「い」でいいのとかことばを聞いてつなげていきます。



もじばん
文字盤

また「キーボードカバー」というのもありました。キーボードのボタンを手でうまくごかせればいいのだけれど、ほかのところを指で押してしまうことがあるので、ほかのところをおさなくてもよいように透明なカバーがついていて、そこに穴があいていてその中に指をいれる道具がありました。



キーボードカバー

M君は高等部で、年齢でいうと高校生です。脳性麻痺という病気で、手とか足とか上手に動かせない、また口の動かし方が難しいM君は、小学校の時から高校生まで家族と離れて入院生活していました。手や足や口が麻痺してうまく動かせないので、「かなタイプライター」という「あいうえお」のかなが出ているものを最初使っていました。でも修正がきかないものでした。それからワープロというのが出てきて、家で買ってもらって使いました。間違えても大丈夫でした。漢字に換えることもできました。打ち直すことができる機械です。



かなタイプライター

M君がワープロを使って最初にやりたいなと言ったことは、お父さん・お母さん・弟君の家族に手紙を書くことでした。手の動かし方が上手でないのと、とても時間がかかりましたが、一生懸命やっていました。

いつも漢字を練習するんですが、なかなか覚えられずとても大変でしたが、家族の名前は漢字ですぐに覚えてしまいました。結構難しい漢字だったのですが、どうしてでしょう。大事な人だったからでしょうね。忘れちゃいけないという気持ちがあったのですかね。家族と離れていたのに、とてもうれしそうに、どんな返事がもらえるのかなととてもうれしそうに手紙を書いていた。

M君のように皆さんにも、大切な人がいると思います。大切な人への想いを形にしてほしいなと思いました。手紙を書くこと、毎日の感謝の気持ちを伝えてもいいと思います。笑顔で挨拶でもいいと思います。そんな小さなことでも自分の思いを伝えられるといいなと思いました。